

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社 エーアステス		
事業所名	グループホーム Myほ～む童里夢		
所在地	札幌市西区平和3条7丁目8番1号		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	平成22年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を目標に入居者様を「自分の親だったら」「自分だったら」と考え、日々のケアを行っております。入居者様と共に掃除や料理を日々行っておりますが同じ事の繰り返しではなく、春には町内の方々と庭の畑に野菜を植え、秋には町内の皆様と収穫をしております。又、外出を多く取り入れて、泊まりがけでの旅行にも出掛けられて皆様楽しまれております。「出来ること」と積極的に頑張って頂き、ADLの維持・筋力の低下防止に努めて安心して楽しく活気ある生活をして頂けるように支援しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400865&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年9月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えた、住宅街の一角にある大きな家を改築した事業所である。9室はすべて間取りが違い特徴もあるので、利用者はそれぞれが自分の家に住んでいる感覚で生き生きと過している。法人内の4施設合同での道内外の宿泊旅行や区内のグループホームの合同食事会への参加など外出行事を多く取り入れ、社会参加の機会を通じて生活の活性化を図っている。作地域住民との交流も良く作品作りボランティアと共に作った心とむ作品が事業所内に数多く飾られている。また春の野菜の種まき、花壇作りから秋の収穫までの作業を地域の人と利用者が一諸に行い、収穫祭には採れた野菜を事業所内で料理して共に味わうなど、地域密着の実践をしている。除雪機で近隣の歩道も除雪する等、手さぐりから始まった地域住民との交流が今では実を結び、行事には高齢者も含む20人もの住民が来てくれる様になっている。又、管理者が栄養士の資格を持っている為食事は栄養面に配慮が行き届き、インシュリン注射をしなくてもよくなった事例等もある。メリハリある生活を目指して化粧療法を取り入れたり、調理の一連の作業を通じて一人ひとりのできることを見極めそれぞれに役割を提供して、利用者は生きがいをもって和気合い合いとした雰囲気の中で過している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から離縁を達成するために何が必要なのかを職員間でコミュニケーションを図りながら話し合いを行っております。又理念や組織については内部研修も行っております。	理念について再確認のため、常に話し合いをし共有して理念に基づいたケアを実践している。新人職員には理念が具体的に理解できるように内部研修をして共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として行事への参加(畑・花植え・収穫・避難訓練等)のお誘い、運営推進会議などでも交流を深めております。又近所の方がボランティアで小物作りに来て下さったり、散歩の際は声を掛けて頂いております。	園芸、農作業、作品作りなどのボランティアへの参加、近隣の人との立ち話など、地域の人とのふれあう機会が多く、相互に積極的な交流が行なわれている。行事や防災訓練には近隣の人が20名位参加してくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議や行事を通して活かしております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善すべき点は話し合いをし、素早く取り組み、サービスの向上や改善に取り組んでおります。	2ヶ月毎定期的に開催されており、防災関連事項、運営状況、行事予定など報告、提案、質疑応答、参加者の意見など充実した会議となっていてサービス向上に活かされている。会議録も整備されている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回西区の管理者連絡会に出席し、区や市の職員と連携を図っております。	市の担当者には電話連絡を密に行いニーズの具体的な報告、助言をもらう、また訪問するなどして連携を図るよう努めている。また、市の担当者は西区管理者会議に出席しているので、情報交換がし易い関係作りが出来ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように全職員が理解しケアを行っております。玄関にはチャイムを置き通ると鳴るようにしております。内部研修も行っております。	外部研修出席者は内部研修会で報告し、全職員は身体拘束に関しての理解を共有してお互いにチェックしながらケアを行なっている。玄関施錠は夜間のみ行い日中は見守り支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括センターの担当の方や民生委員と運営推進会議で話し合いをしたり、全職員が理解するように内部研修や都度の話し合いをしたり、資料も常に見られるようにしております。			

Myほ〜む童里夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく行っておりませんが、機会を見つけて研修等に参加したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には必ず十分な説明をし、重要事項説明書などの交付を行い実施しております。又事前の解約についての説明も十分にしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、管理者・職員共に意見・不満・苦情をいつでも誰にでも話せるようにコミュニケーションを図り、傾聴の場を設けております。又家族の面会の際に直接お話を伺っております。	家族の来訪時は積極的に関わり家族が卒直な意見を云えるように努めている。遠方の家族には電話で報告して意見を聞いている。意見箱も設置して家族の意見、要望を前向きに受け止め運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回ミーティングを行っております。又日々の中でも何かあれば都度声を掛けたり、連絡を話し合いを行っております。	法人代表者は介護職経験があり職員の意見や要望を理解している。職員は会議において卒直な発言やアイデアを求められており、気づきや意見は運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を見聞きしながら把握し、向上心を持って仕事に取り組むことが出来るように常日頃より職員と話しをしながら働きやすいような環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や日々のケアの中で指導を行い、職員のスキルアップに努めております。それを内部研修で活かしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や他グループホームと一緒に行事に参加することで話す機会を持ち、質の向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大切にし、個々の生活を出来る限り崩さないように努め、信頼関係を築くように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とご本人と十分話し合いを行い、信頼関係を築くように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話を傾聴し、どんなことに不安や疑問を感じているのかを話し合い、ケアプランに反映し必要とする支援を提供できるように心掛けております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様をいつも「自分の親だったら」「自分だったら」と相手の気持ちを考えて、共に過ごしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にコミュニケーションを取り、入居様様の状態を把握しご家族様に報告し、共に支え合える関係作りをしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身元を確認した上での面会や手紙を書いたり、友人・知人を大切にしております。	友人、知人、家族に手紙を出す、電話をかける、訪問して貰うなど馴染みの人との繋がりが継続できる様に取り持つ事を大事に支援している。又携帯電話使用時のサポートも行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様同士会話をされたり、レクリエーションなどをされて楽しく過ごされております。入居様様間でのトラブルがないように関係を十分に把握し、対応させて頂いております。トラブルが起きそうな時は、職員が仲介に入るようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて良い関係を続けられるに、付き合いを大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から希望等をお聞きしケース記録や連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有できるようにしております。困難な希望や思いが伝えられない方にはなるべく近いものを提供し、その人らしく生活が出来るように支援しております。	日々の関わりの中で表情、声のトーン、行動から気持ちを汲み取り把握に努め、本人の希望や意向に沿えるように支援している。職員はお互いの情報を提供して共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご本人・ご家族から十分にアセスメントを行い、個々の情報を把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調に合わせた役割や場面を作れるように、日々の暮らしの中で個々のペースを把握する様に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の希望を基に、スタッフ全員がアセスメントを共有し、カンファレンスの中から意見を介護計画に反映出来るように努めております。	毎日の実践記録からできたこと、できないことを見極め毎月のモニタリングで話し合いプランに反映している。本人、家族の意見を尊重して取り入れ本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が日々の様子の変化やちょっとした会話からの気づき、個別ノートやケアプランなどに記入して月1回の評価に生かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況やその時の要望に応じて、系列事業所との交流も視野に入れて支援させて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様も参加されての避難(防災)訓練を実施しております。近所の方がボランティアで来て頂き小物作りを一緒にされております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が週2勤務に入り対応しております。又それぞれの入居者様の担当には2週に1度の訪問診療、月1度の往診に来て頂いております。急変時にも直ぐ対応できるようにしております。	2週間に1度の訪問診療、馴染みのかかりつけ医への通院や往診など、個々の利用者・家族の希望を重視して受診の支援に努めている。通院時は付き添い支援を行うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に変化があった時などは直ぐに看護師に相談しております。適切な受診が受けられるよう、日常の健康管理は出来ております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と相談しながら、御本人の意向に沿った対応をしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について出来るだけ早い段階から家族・かかりつけ医・看護職員で話し合い、職員同士ケアの方針を共有しております。	契約時に重度化や終末期のあり方、事業所の医療連携体制の説明、事業者のできることを説明をして話し合っている。家族、本人の希望を受けとめてケア方針を定め全員が共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策などマニュアルも作成しております。応急手当など看護師又は消防施設での訓練などで行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員と共に施設内で定期的避難訓練や防災センターでの見学・体験など行っております。又、全職員が避難時の誘導対処の仕方などを理解しております。	昼夜想定避難訓練を住民参加、消防立会いで年2回実施している。火災通報装置の設置、運営推進会議での意見交換、外部研修受講など災害対策に関して積極的に取り組んでいる。	近隣の人も含めた連絡網は作成されているが、災害発生時の一刻を争う状況を想定して、使いやすいものにしておく事が望まれる。又、建物の構造上スプリンクラーの早期の設置が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせてプライバシーを損ねない様な関わり方をしております。	利用者の誇りや尊厳を尊重して、プライドを傷つけないように言葉かけにも配慮して対応している。	二階のトイレは玄関から居間に行く際に付く場所にある。トイレの前の防火扉は全面ガラスなので、プライバシーの観点から目隠しの工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がなかなか出てこない方には時間を掛け、それぞれの思いや希望を表せるよう働きかけ、納得しながら暮らせるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	せかず事なく一人ひとりのペースに合わせて、又出来る限り希望に添うように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的訪問理容を利用したり、長い髪の方などは、職員が毎日整えております。		

Myほ〜む童里夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来ることを負担にならないように意欲的にして頂いております。メニューを書いて頂いたり、食材の調理や準備をする事で食事を楽しみになるように心掛けています。後片付けや食器拭きなどもして頂いております。	調理の一連の作業のなかで、各自が自分でできることを選び、職員は力が発揮できる場面作りを支援している。献立も利用者の希望を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じておかゆや刻み食にし、水分はコーヒーやカロリーオフのジュース等お好みの飲み物で水分量が確保できるように記録しながら、支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後、見守り・介助にて口腔ケアを行い、口腔状態を確認しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には時間や排尿記録を見ながら声掛けや誘導し、失敗が減るように支援しております。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して自立を目指した支援をしている。トイレでの排泄回数が増えるなど、排泄のレベルアップに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前はラジオ体操と天気の良い日には歩に行かれています。午後は体操と廊下歩行をして頂いております。又野菜は食べやすいように調理し、残さず召し上がって頂けるように取り組んでいます。水分もこまめに取って頂いております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分に応じて無理強いせず、後日様子を見て入浴して頂いております。ご本人の好きな時間帯に入られるように支援しております。	週2〜3回を目途に入浴しているが希望時は臨機応変に対応している。入浴拒否の時はケア職員の変更、入浴時間を変えるなど工夫しながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が優れない方や長い時間座位状態の方は居室にて休んで頂き、定期的に見回りを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を把握し、状態に応じて医師の指示を受けて薬の増減をしながら服薬の支援をし、症状の変化を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの出来ることで役割を持ってもらい、活気のある生活になるように支援しております。季節に合わせたレクリエーションや外出で楽しみや気分転換が出来るように支援しております。		

Myほ～む童里夢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は体調に合わせ、毎日散歩に行っております。外出してみたい所の希望を聞き、レクや行事として取り入れております。	外出する機会を多く作り、散歩、買い物、外食、本人の希望によるデパートやふるさと訪問等、利用者本位の外出支援をしている。宿泊旅行の支援もしており、近くの温泉や飛行機を利用して岩手県等へも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の希望を聞き、自己管理の出来る方は現金を持って頂いております。管理が必要な方は、使用時に援助をし使用しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す支援をや電話を掛けたい方には対応させて頂いております。定期的の手紙を出される方や携帯電話を持っている方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月々のカレンダーを作成、季節による飾り付け等で気持ちが穏やかに明るくなるように工夫しております。また季節の花などを飾るように心掛け、季節感を味わって頂けるようにしております。	居間には行事の写真やボランティアと一諸に作った作品、季節感ある展示物が飾られている。心が和むフロアで利用者と職員は和気合い合いとした雰囲気談笑しており、共用スペースが居心地の良い団欒の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを置いたり、居間にも大小のソファ、一人掛けの椅子を置き、自由にゆくりと過ごせるように配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を居室に飾られたり、なじみの家具などを配置して、御本人が安心して過ごせるように配慮しております。	大小さまざまな居室に家具や調度品、趣味の本、CD、仏壇など自由に配置されていてその人らしい個性的な居室となっている。居室のスペースも広く家族が宿泊されることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや昇降機が設置されております。安全に歩行・生活が出来るように廊下には物を置かないよう気を付けております。又、個人の居室の環境整備も清掃・訪室の際に行っております。		